

「あなたは救われていますか?」、そう聞かれたら、どう答えるでしょうか。聖公会ではあまり「救い」という言葉は使いませんが、キリスト教の教派によっては、ことさら「救い」を強調しているところもあります。

「救い」には、いろいろな側面があると思います。一つは個人的な「救い」です。様々な困難から救出されるときに、わたしたちは「救われた」と感じるのかもしれませんが。たとえば病気や自然災害、心の悩みやあらゆる苦しみからの解放が、「救い」にあたります。また、民族や国家が外国からの圧力から解放されることも、「救い」ととらえることができるでしょう。

旧約の中で、「救い」は出エジプトの出来事を指しました。神さまの力によって、イスラエルの民がエジプトの奴隷状態から解放されたことが、彼らにとっての「救い」だったのです。

イエス様の時代、ユダヤの人たちは「救い」の成就を待望していました。メシアが自分たちの元に来て、ローマの圧政から自分たちが解放されることを心から願っていました。またある人たちは、病人をいやし、5000人の人たちをわずかなパンと魚で満腹させるイエス様の姿を見て、この人こそ自分たちをこの現状から救ってくれる人だと思いました。

ところがイエス様は、十字架の上で死なれました。それは神さまのみ心がそうだったからです。神さまはイエス様の血をもって、わたしたちを「救い」に導こうとされたのです。

イエス様の死によって、わたしたちと神さまは正しい関係に戻されました。それはわたしたちの罪がイエス様によって贖われ、わたしたちが「救い」に与ったからです。これがわたしたちにとっての「救い」です。神さまはそのために、イエス様を遣わされたのです。

次回は「救い主」です。お楽しみに。



「キリスト降誕」

ジョット・ディ・ボンドーネ

(1267頃～1337年)

わたしはこの目であなたの救いを見たからです。

(ルカによる福音書 2章30節)

